

日本原子力学会 核燃料部会
平成 29 年度第三回運営小委員会議事録

日時 : 平成 29 年 10 月 31 日 (火) 13:30~16:15

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : 寺井部会長、伊藤副部会長、宇埜副部会長、天谷委員、池田委員、上田委員、佐藤(隆)(新任予定)、逢坂委員、大矢委員、河原委員、草ヶ谷委員、小崎委員、大脇(谷口委員代理)、渡部(新任予定・手島委員代理)、原田委員、平井委員、山内委員、柳沢(新任予定)、島田(記)

議事

1. はじめに

寺井部会長から、上期が終わったが核燃料部会としての活動を今後ともしっかりと運営していきたいとの挨拶があった。

2. 前回運営小委員会議事録等の確認

島田庶務幹事から、資料 1 により、前回(平成 29 年度第二回)運営小委員会議事録が提示された。内容確認済みであり、説明は省略した。

平井委員から、学会誌「部会トピックス」記事について、一旦引受けた内容が学会誌編集事務局によると相応しくない内容とのことだったため、一般記事にするなどして取り下げたい旨申し出があり、了承された。相応しい内容について、平井委員から編集事務局に問い合わせし、その結果を共有することとなった。

3. 委員の交代について

島田庶務幹事から、資料 2 により、新任及び交代委員の紹介とともに、HP 掲載案及び情報メール配信案が示された。

部会長により、当該委員の指名と情報メールにより部会全体会議による承認に代える旨確認され、上記案が了承されたため、島田庶務幹事より速やかに HP 掲載と情報メール配信を手配することとなった。

4. 平成 29 年度予算の支出予想(収支実績)と平成 30 年度予算の確認

島田庶務幹事から、資料 3 により、平成 29 年度 9 月までの収支実績と平成 30 年度予算案が示された。各委員より引続きコメントを受けることとなった。

5. 平成 30 年度核燃料部会業務分担について

資料 3 により、島田庶務幹事から業務分担計画表が提示された。

庶務幹事については従来の 4 月交代から 10 月交代に変更する案が了承された。その他、委員の交代等を反映した表について了承された。

また、来年度以降の国際活動担当（表中の「外」）がないことに関し、宇埜副部会長より確認があり、従来副部会長の所掌であることから、宇埜副部会長が来年度以降の体制を含め検討することとなった。

6. 国際会議の実施結果

資料 5 により、逢坂委員から WRFPM2017 開催報告、ANFC2017 開催報告、及び HOTLAB2017 の開催報告があった。特に WRFPM2020（中国）への引継ぎが韓国からあったこと、HOTLAB2017（核燃料部会共催）については、アジアで初開催が水戸となり、例年 100 名程度の参加者のところ 150 名参加と盛況であったこと等が報告された。

また、WRFPM2020 の日本のコンタクトパーソンは逢坂委員とする旨承認された。ANFC2017 参加学生 1 名の旅費補助についても承認された。

次回の運営小委員会にて、HOTLAB2017 の繰越金について協議したい旨逢坂委員より提案され了承された。

7. 核燃料部会部会賞（学会講演賞）の集計状況、（奨励賞）の選考委員案及び今後の予定

資料 6 により、平井委員から、学会講演賞及び奨励賞の選考状況及び今後の予定が報告された。部会賞選考小委の委員について、宇埜副部会長を委員長とし、以下、佐藤（修）副委員長と 6 名の委員とすることとし、委員のうち 1 名は応募状況をみて、大学か研究機関等から選出することが承認された。

また、企画小委での議論として、春と秋の学会で審査し、次の春の学会で表彰することについて、最終学年の学会で審査され就職してからの学会で表彰されても参加しにくい、座長+その場にいる人が採点するほうが合理的、バックエンド部会や安全部会の例等の意見が挙がり、平井委員が他部会等調査し部会規則の改定を含めまとめて報告することとなった。

8. 2018 年春の大会での企画セッションについて

資料 7 により、平井委員から、企画小委での議論が紹介された。核燃料部会の企画セッションは学会核燃料部会全体会合の後に実施されており、過去実施しなかったのは 1 回くらいであることから、実施を前向きに検討し、11 月末頃の締切までに、水化学部会中心だが「シビアアクシデント時の核分裂生成物

挙動」をテーマに実施できないか、平井委員より水化学部会に確認することとなった。

9. 企画小委員会の概要について

資料 8 により、宇埜副部長から、2017 年 10 月 20 日に開催された企画小委員会の議事について報告された。主に本日の各委員の報告と同様とのことであった。

10. 平成 29 年度第一回部会等運営委員会 (9/28) の出席報告

資料 9 により、伊藤副部長から、2017 年 9 月 28 日に開催された原子力学会「2017 年度 第 1 回 部会等運営委員会」の議事について報告された。学会における無料公開セッション実施提案が一般向けという内容と乖離しており、部会等運営委員会で多くが有料セッションに差替えとなっているという課題が存在すること、今年の秋の大会（北大）の参加数 1,700 名が昨年秋（久留米）の 1,360 名を大きく上回ったこと、スクリーニングで問題なった講演 1 件が学会で実施される結果となったことから講演承認を厳格化すること、等が紹介された。周知事項として学会 HP で部会の月次収支報告を見られるパスワードの紹介があった。

11. ポジションステートメントについて

尾形委員作成の資料 10 により、以下の議論があった。

学会内部向けに、一般の方に学会員が説明するためのスタンダードという位置づけであり、有意義ではあるがどこで終わりにするかに苦慮している。ポジションステートメント WG によるパブコメ対応中であるが、長期に渡る対応で宙に浮かせておくのはよろしくないため、ポジションステートメント WG による扱いを諦めて、核燃料部会で引き取る方法もある。

以上の意見を尾形委員に伝え、尾形委員からの確認事項があれば引続きメールにて審議することとなった。

12. 平成 29 年度 第 30 回 核燃料・夏期セミナー 開催報告

資料 11 により、上田委員から 2017 年 7 月 5 日～7 日、青森市浅虫温泉海扇閣にて開催した夏期セミナーについて報告があった。40 名参加（事務局含まず）、ポスターセッションは 3 名参加、会計収支では青森市の助成金制度により 15 万円の補助金が得られ、約 49 万円の黒字となったこと、アンケートの結果等が報告された。

13. 平成 30 年度 三部会合同夏期セミナーの準備状況について

大脇夏期セミナー幹事代理から、資料 12 により、2018 年 8 月 6 日～8 日開催の夏期セミナーの準備状況が報告された。水化学部会が幹事部会としてリードし、場所は掛川グランドホテル、材料部会の阿部先生のご希望で浜岡発電所研修センターの「失敗に学ぶ回廊」他がサイトツアーに入れられたこと、材料部会は学生参加が多く、他は少ないこと、次回運営小委くらいまでにプログラム等水化学部会から提案があること等が報告された。

14. 核燃料部会報 53-1 の作成状況

原田前広報幹事から、部会報 (No. 52-2) の作成状況が説明され、巻頭言の原稿があれば発行できる旨報告された。

資料 13 により、大矢広報幹事から部会報 (No. 53-1) の進捗状況について報告された。企画セッションについては、伊藤副部長よりトリウム燃料の利用関連の執筆の申し出があり、大矢幹事より依頼された。国際会議紹介及び国際交流ニュースについては、逢坂委員よりご紹介の検討申し出があり、大矢幹事より依頼された。

15. その他

(1) 次回の開催予定

次回 (平成 29 年度) 第四回運営小委員会は、2 月 26 日に原子力学会事務局会議室で開催予定とした。

以 上